

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
79	障害者を持つ患者への服薬支援	Dosing support to the patient with disabilities.	倉田なおみ(昭和大学 藤が丘ハビリテーション病院 薬局)	ファルシア JST資料番号:S0044A ISSN:0014-8601 CODEN:FARUAW	Vol.40, No.9, Page.811-816 (2004.09.01) 写図表参: 写図6, 表1, 参7	障害者を持つ患者への服薬支援に関する運動障害とできる下障害に対する当院の取り組みを紹介した。運動障害と自助具との関係が紹介された。また患者自ら服用できるように工夫(開錠リマク患者の場合、脳卒中片麻痺患者の場合、新しい経管投薬法)についてコメントし、えん下障害の程度に応じた杖と法と剤形、及び経管投薬法における問題点(粉砕調剤)の問題点、経管投薬時パーキンソン病薬者は、進行する病状にあり、診察や治療、看護を継続して受けて、健康問題に配慮すること、また生ずる生活障害に配慮すること、が養育者と家族の課題である。そして健康問題や生活障害への対応に際して、健府対策事業に関わるサービス、医療保険や介護保険(40歳以上)、身体障害に関わる制度に基づくサービスを利用することができ、療養状況に応じて地域の医療および生活の支援態勢をつくる必要があり、保健師、市町村の保健師、介護保険のケアマネージャー等が療養環境の調整を行うことも多い。病初期では、診断と治療に関するセカンドオピニオンを求める。健康問題や生活障害が顕著になつてくる時期には、地域主治医および専門診療態勢の確保困難、など、気管切開、経管栄養法などの医療処置管理を必要とする時期には、訪問看護と介護態勢の調整、などが主たる支援課題であり、支援各機関の連携による適切な療養支援が重要である。
80	XVリハビリテーション、看護・介護補助制度、支援-2 パーキンソン病療養者の療養支援課題と支援システム		小倉朗子(東京都医学研究機構 東京都市神経総研)	脳の科学 JST資料番号:Z0794B ISSN:1343-4144	Vol.26, 増刊号, Page.401-404 (2004.02.20) 写図表参: 参6	運動障害と自助具との関係が紹介された。また患者自ら服用できるように工夫(開錠リマク患者の場合、脳卒中片麻痺患者の場合、新しい経管投薬法)についてコメントし、えん下障害の程度に応じた杖と法と剤形、及び経管投薬法における問題点(粉砕調剤)の問題点、経管投薬時パーキンソン病薬者は、進行する病状にあり、診察や治療、看護を継続して受けて、健康問題に配慮すること、また生ずる生活障害に配慮すること、が養育者と家族の課題である。そして健康問題や生活障害への対応に際して、健府対策事業に関わるサービス、医療保険や介護保険(40歳以上)、身体障害に関わる制度に基づくサービスを利用することができ、療養状況に応じて地域の医療および生活の支援態勢をつくる必要があり、保健師、市町村の保健師、介護保険のケアマネージャー等が療養環境の調整を行うことも多い。病初期では、診断と治療に関するセカンドオピニオンを求める。健康問題や生活障害が顕著になつてくる時期には、地域主治医および専門診療態勢の確保困難、など、気管切開、経管栄養法などの医療処置管理を必要とする時期には、訪問看護と介護態勢の調整、などが主たる支援課題であり、支援各機関の連携による適切な療養支援が重要である。
81	栄養アセスメント、蛋白とNST・クレンジカルパス、栄養スクリーニングにおける栄養アセスメント蛋白の有効性	Effectiveness of nutritional assessment protein for nutritional screening	藤田征志(三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院 薬劑部)	生物試料分析 JST資料番号:L0201A ISSN:0913-3763	Vol.27, No.3, Page.197-203 (2004.06.30) 写図表参: 写図14, 表5	運動障害と自助具との関係が紹介された。また患者自ら服用できるように工夫(開錠リマク患者の場合、脳卒中片麻痺患者の場合、新しい経管投薬法)についてコメントし、えん下障害の程度に応じた杖と法と剤形、及び経管投薬法における問題点(粉砕調剤)の問題点、経管投薬時パーキンソン病薬者は、進行する病状にあり、診察や治療、看護を継続して受けて、健康問題に配慮すること、また生ずる生活障害に配慮すること、が養育者と家族の課題である。そして健康問題や生活障害への対応に際して、健府対策事業に関わるサービス、医療保険や介護保険(40歳以上)、身体障害に関わる制度に基づくサービスを利用することができ、療養状況に応じて地域の医療および生活の支援態勢をつくる必要があり、保健師、市町村の保健師、介護保険のケアマネージャー等が療養環境の調整を行うことも多い。病初期では、診断と治療に関するセカンドオピニオンを求める。健康問題や生活障害が顕著になつてくる時期には、地域主治医および専門診療態勢の確保困難、など、気管切開、経管栄養法などの医療処置管理を必要とする時期には、訪問看護と介護態勢の調整、などが主たる支援課題であり、支援各機関の連携による適切な療養支援が重要である。
82	歯周病細菌の遺伝子多型の歯周病原性との関連		天野敦雄(大阪大学大学院歯学研究所 口腔分子免疫制御学)	食生活科学、文化及び地球環境科学に関する研究助成研究紀要 JST資料番号:L3776A ISSN:1345-0115	Vol.17, Page.49-53 (2004.05) 写図表参: 写図2, 表1, 参11	運動障害と自助具との関係が紹介された。また患者自ら服用できるように工夫(開錠リマク患者の場合、脳卒中片麻痺患者の場合、新しい経管投薬法)についてコメントし、えん下障害の程度に応じた杖と法と剤形、及び経管投薬法における問題点(粉砕調剤)の問題点、経管投薬時パーキンソン病薬者は、進行する病状にあり、診察や治療、看護を継続して受けて、健康問題に配慮すること、また生ずる生活障害に配慮すること、が養育者と家族の課題である。そして健康問題や生活障害への対応に際して、健府対策事業に関わるサービス、医療保険や介護保険(40歳以上)、身体障害に関わる制度に基づくサービスを利用することができ、療養状況に応じて地域の医療および生活の支援態勢をつくる必要があり、保健師、市町村の保健師、介護保険のケアマネージャー等が療養環境の調整を行うことも多い。病初期では、診断と治療に関するセカンドオピニオンを求める。健康問題や生活障害が顕著になつてくる時期には、地域主治医および専門診療態勢の確保困難、など、気管切開、経管栄養法などの医療処置管理を必要とする時期には、訪問看護と介護態勢の調整、などが主たる支援課題であり、支援各機関の連携による適切な療養支援が重要である。
83	非エステル型脂肪酸(NEFA)アベリペリチアの生理学的調節: 脂質分解経路	Physiological regulation of NEFA availability: lipolysis pathway	STICH V (Charles Univ., Prague, CZE), BERLAN M (INSERM, Toulouse, FRA)	Proc Nutr Soc JST資料番号:E0308A ISSN:0029-6651 CODEN:PNUSA	Vol.63, No.2, Page.369-374 (2004.05) 写図表参: 写図2, 参35	運動障害と自助具との関係が紹介された。また患者自ら服用できるように工夫(開錠リマク患者の場合、脳卒中片麻痺患者の場合、新しい経管投薬法)についてコメントし、えん下障害の程度に応じた杖と法と剤形、及び経管投薬法における問題点(粉砕調剤)の問題点、経管投薬時パーキンソン病薬者は、進行する病状にあり、診察や治療、看護を継続して受けて、健康問題に配慮すること、また生ずる生活障害に配慮すること、が養育者と家族の課題である。そして健康問題や生活障害への対応に際して、健府対策事業に関わるサービス、医療保険や介護保険(40歳以上)、身体障害に関わる制度に基づくサービスを利用することができ、療養状況に応じて地域の医療および生活の支援態勢をつくる必要があり、保健師、市町村の保健師、介護保険のケアマネージャー等が療養環境の調整を行うことも多い。病初期では、診断と治療に関するセカンドオピニオンを求める。健康問題や生活障害が顕著になつてくる時期には、地域主治医および専門診療態勢の確保困難、など、気管切開、経管栄養法などの医療処置管理を必要とする時期には、訪問看護と介護態勢の調整、などが主たる支援課題であり、支援各機関の連携による適切な療養支援が重要である。



障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

和文課題	英文課題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
生活関連アセスメントの選択と使用方法 (10) 介護の質の評価「介護の質」の評価、質評価に関する全国調査から		鳥羽研二 (杏林大 医 高齢医学)	障害高齢者の生活機能評価に関するガイドライン研究 平成12-14年度総合研究報告書 JST資料番号:N20040070	Page.93-97 (2003) 写図表 参:写図10,表1	介護保険成立後の制度直しに向けて介護サービスクラス(B)詳細調査の意義が極めて大きいと判断された。この判断から老年医学会(0)が実施した「介護の質」(A)全国調査の結果を報告した。Aの項目選定にはこの介護システム検討委員が提出した項目をカテゴリ別に集約し、アンケート項目の妥当性を関係機関の意見を加えて検討した。調査票は回収61.4,分析560票であった。B提供体制は、ほぼ90%以上の施設で13項目が整備されていたが、ターミナルケア(床、壁防漏加工、健康介護予防情報提供を含む)11項目では不足が目立った。B提供状況は、ほぼ90%以上の施設で14項目が実施され、口腔ケア(えん下障害者、体位変換、じょくそう取り組み、ぼうごろかア見直し、排尿誘導は顕著な普及を認めた。入浴回数、歯立、レクリエーション)
QOLを高める栄養療法(基本的な考え方・clinical evidence)の有無・問題点のupdate) 摂食・えん下障害者に対するリハビリテーション・マネージメント		藤谷順子 (国立国際医療センターリハビリテーション科)	聴脈・経腸栄養 JST資料番号:L2010A ISSN:1344-4980	Vol.18, No.4, Page.25-31 (2003.12.25) 写 図表参:表10, 参13	摂食・えん下障害者に対するリハビリテーションは、単なる訓練ではなく、疾患のコントロール、えん下障害者の治療に付随する様々な障害の改善・代償手段を利用した総合的アプローチを中心として、各科の医師、看護士、栄養士、理学療法士などによるチーム医療が求められている。経口摂食の再獲得とともに、誤嚥性肺炎、栄養障害・脱水に関するマネージメントがリハビリテーションのゴールである。経口摂食はQOLに大きく関与する因子であり、摂食・えん下障害者のQOLには、経口摂食の可否が最も大きく、適切な高齢者向け食器について、ユーザーの要求事項を見つけたことに重点をおいた開発を行った。ユーザーニーズ収集を、まず島根県内の特別養護老人ホーム2個所と身体障害者看護施設1個所で行った。この調査結果に基づき製作した器具とスプーンを別の特別について介護士、栄養士の関わり調査を実施した。これらの調査結果に基づいて問題点、解決案を提示した。施設入居者のスプーンの使用状況の調査結果には、ばらつきがあり今後の調査へ
人間中心の製品開発に関する研究		沢田慎治, 東紀孝 (島根県産技セ)	島根県産業技術センター研究報告 JST資料番号:L4210A ISSN:1345-7675	No.40, Page 4-8 (2003.11) 写 図表参:写図4, 表4, 参5	インテラクトの2-6歳の障害児(n=141)の栄養状態を非障害児兄弟(n=122)及び近隣の子ども(n=162)と比較した。障害児群の栄養状態は他群より劣った。障害児群の年齢対比体重は兄弟群や近隣群より有意に低かった。ヘモグロビンレベルも同様に低かった。年齢対比体重を用いた相対的リスク分析によれば、摂食障害を持つ障害児は摂食障害を持たない障害児より栄養不良になりやすかった。身長指標及び体重、身長指標を用いたリスク分析でも同様であった。障害児の摂食障害は栄養不良の危険因子であることが確認された。離乳は母乳の基礎の上に成り立ち、新しい課題を学習する順序である。個別助産の養育を標準通りに近づけて開始することである。離乳前に準備食としての果物は用いない。平均的な発達に合わせた月齢で離乳時期を指導しない。1回は乳量や哺乳時間が安定し、ほぼ回数が規則的になることが離乳開始時期と考える。離乳後は形態の軟らかいものから中期・中期・後期と順次進め、いくが月齢に捕らわれない必要はない。離乳完了時には1日に3度の食事だけを許す食習慣を形成する。この間に、間食を開始したり、
障害児の摂食障害は栄養不良となる。インテラクトにおける経験	Feeding difficulties in disabled children leads to malnutrition: experience in an Indian slum.	YOU SAFZAI A K, FILTEAU S, WIRZ S (Univ. Coll. London, London, GBR)	Br J Nutr. JST資料番号: B0336A ISSN:0007-1145 CODEN:BJNUA	Vol.90, No.6, Page.1097-1106 (2003.12) 写図 表参:写図1,表 5,参58	インテラクトの2-6歳の障害児(n=141)の栄養状態を非障害児兄弟(n=122)及び近隣の子ども(n=162)と比較した。障害児群の栄養状態は他群より劣った。障害児群の年齢対比体重は兄弟群や近隣群より有意に低かった。ヘモグロビンレベルも同様に低かった。年齢対比体重を用いた相対的リスク分析によれば、摂食障害を持つ障害児は摂食障害を持たない障害児より栄養不良になりやすかった。身長指標及び体重、身長指標を用いたリスク分析でも同様であった。障害児の摂食障害は栄養不良の危険因子であることが確認された。離乳は母乳の基礎の上に成り立ち、新しい課題を学習する順序である。個別助産の養育を標準通りに近づけて開始することである。離乳前に準備食としての果物は用いない。平均的な発達に合わせた月齢で離乳時期を指導しない。1回は乳量や哺乳時間が安定し、ほぼ回数が規則的になることが離乳開始時期と考える。離乳後は形態の軟らかいものから中期・中期・後期と順次進め、いくが月齢に捕らわれない必要はない。離乳完了時には1日に3度の食事だけを許す食習慣を形成する。この間に、間食を開始したり、
離乳 ハリウスクエア児等の離乳 重症障害児の離乳指導		武田康男 (北九州市総合療育センター)	母子保健情報 JST資料番号:X0482A ISSN:0389-8997	No.48, Page.60-65 (2003.11.20) 写 図表参:表8,参 4	離乳は母乳の基礎の上に成り立ち、新しい課題を学習する順序である。個別助産の養育を標準通りに近づけて開始することである。離乳前に準備食としての果物は用いない。平均的な発達に合わせた月齢で離乳時期を指導しない。1回は乳量や哺乳時間が安定し、ほぼ回数が規則的になることが離乳開始時期と考える。離乳後は形態の軟らかいものから中期・中期・後期と順次進め、いくが月齢に捕らわれない必要はない。離乳完了時には1日に3度の食事だけを許す食習慣を形成する。この間に、間食を開始したり、
II 各論<疾病篇> 6.矯正施設内における精神疾患の特徴-病像と治療 2)摂食障害と拒食(成人施設)		滝口直彦 (八王子医療勤務所)	矯正医学 JST資料番号:F0473A ISSN:0452-974X CODEN:KYIGA	Vol.52, 第50回 総会記念号, Page.132-136 (2003.10.23) 写 図表参:参2	摂食障害は、神経性無食飲症と神経性大食症に分けられる。矯正施設内では食事管理は厳格に管理され、従来、従来の摂食障害を1年以上投与されていた重症心身障害児6例に、至適な脂質構成の経腸栄養剤(0)を投与しその影響を観察した。1は、従来と同一カロリーで、n-3系多価不飽和脂肪酸を強化し、中鎖脂肪酸含有量も強化した(n-6/n-3比=6)である。変更前後における血清脂肪酸組成の推移を測定した結果、従来の経腸栄養剤を投与期間中は血清n-6/n-3比は正常小児に比して有意に高かったが、1を投与することにより脂質構成は正常化し、小腸機能の増大が示唆され、経腸栄養管理に有用であった。
重症心身障害児の脂質構成に着目した栄養管理に関する基礎的検討	Proper Lipid Composition in Enteral Feeding for Severely Retarded Children.	佐藤薫治, 東本恭幸, 岩井潤, 江東孝夫 (千葉県こども病院 外科), 田中芳明 (久留米大 医 小児外科)	日本小児外科学会雑誌 JST資料番号:Z0037B ISSN:0288-609X	Vol.39, No.6, Page.741-747 (2003.10.20) 写 図表参:写図5, 表2, 参20	摂食障害は、神経性無食飲症と神経性大食症に分けられる。矯正施設内では食事管理は厳格に管理され、従来、従来の摂食障害を1年以上投与されていた重症心身障害児6例に、至適な脂質構成の経腸栄養剤(0)を投与しその影響を観察した。1は、従来と同一カロリーで、n-3系多価不飽和脂肪酸を強化し、中鎖脂肪酸含有量も強化した(n-6/n-3比=6)である。変更前後における血清脂肪酸組成の推移を測定した結果、従来の経腸栄養剤を投与期間中は血清n-6/n-3比は正常小児に比して有意に高かったが、1を投与することにより脂質構成は正常化し、小腸機能の増大が示唆され、経腸栄養管理に有用であった。
脳卒中患者の在宅復帰・復帰困難例への私たちの工夫 医学的観察を要する例		武沢信夫 (健康会 京都南病院 リハビリテーション科)	J Clin Rehabil JST資料番号:L1820A ISSN:0918-5259	Vol.12, No.11, Page.955-960 (2003.11.15) 写 図表参:写図4, 表4, 参3	摂食障害は、神経性無食飲症と神経性大食症に分けられる。矯正施設内では食事管理は厳格に管理され、従来、従来の摂食障害を1年以上投与されていた重症心身障害児6例に、至適な脂質構成の経腸栄養剤(0)を投与しその影響を観察した。1は、従来と同一カロリーで、n-3系多価不飽和脂肪酸を強化し、中鎖脂肪酸含有量も強化した(n-6/n-3比=6)である。変更前後における血清脂肪酸組成の推移を測定した結果、従来の経腸栄養剤を投与期間中は血清n-6/n-3比は正常小児に比して有意に高かったが、1を投与することにより脂質構成は正常化し、小腸機能の増大が示唆され、経腸栄養管理に有用であった。
これは使える! 苦痛緩和のアプローチ (10) 血圧低下を緩和しよう!		佐々木恵子 (三樹会 吉野・宅三ステーションクリニック)	透析ケア JST資料番号:L3758A ISSN:1341-1489	Vol.9, No.10, Page.954-956 (2003.10.01) 写 図表参:参4	透析時低血圧の原因は、著者の調査では、除水関連46.5%,心疾患18.7%,体重設定の不適切13.9%,食事摂取後4.6%,その他原因不明であった。糖尿病や長期透析患者など昇圧系の障害者への配慮も必要である。除水速度を毎時0.8Lまたは総除水量の3%を1時間当たりの上限とし、透析間の体重増加を5-6%以内に抑えるよう塩分・水分制限など食事指導を行うとよい。血圧変動を検討し、降圧薬の服用を透析前日や当日朝は減量ないし中止し、透析中ないし後の服用とする。週3回4時間の血液透析を施行中の透析歴11年の女性患者への取り組みを紹介した。透析前の血清BUNが90mg/dlと高値のため、1.0%食塩水などの高張液注入を試みた。食事指導も行い体重増加を抑え基体重量を下げつつあった。

101	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
101	長期経管栄養者における口腔環境に関する検体-唾液pHと細菌汚染率の状況-咽頭細菌について-	Study on oral environment for patients with long-term tube feeding - Salivary pH, periodontal disease and pharyngeal bacterioflora -	内藤浩美, 大橋一之 (国障医療福祉大臨床医研セ 歯科口腔外科), 神部芳則, 草間幹夫 (自治医大 歯科口腔外科)	日本口腔科学会雑誌 JST資料番号:F0912A ISSN:0029-0297 CODEN:NKCOGA	Vol.52, No.4, Page.181-187 (2003.07.10) 写 図表参:写図6, 表1, 参20	経管栄養者における口腔環境を明らかにするため,重症心身障害児施設に入所中のNGチューブを留置されている患者13名(経管群)と経口摂取を行っている患者25名(経口群)について調査した。唾液pHでは経管群が7.3,経口群が7.0で,経管群が有意に高かった。歯周炎患者は経管群で歯肉炎が重度の割合が有意に高かった。また,歯石沈着が経管群の全例で認められ,92%ではこの割合にも認められた。咽頭細菌については,Streptococcus,Neisseriaの検出率が有意に低く,かつそのカンジダ,緑膿菌,MRSA,肺炎球菌の検出率が有意に高かった。
102	車椅子バスケットボール選手の基礎代謝量特性		増田利隆, 松枝秀二, 長尾光城, 長尾慈樹 (川崎医療福祉大 大学院医療技術学研究所 健康科学専攻)	川崎医療福祉学会誌 JST資料番号:L1384A ISSN:0917-4605	Vol.13, No.1, Page.159-163 (2003.06.25) 写 図表参:写図1, 表3, 参13	車椅子バスケットボールを行っている者のエネルギー所要量についての報告はほとんどない。車椅子利用者の健康増進のための基礎的資料が必要とされている。特に車椅子バスケットボール選手は健常者と比較して下肢の筋肉量が低下し,基礎代謝量(BMR)も健常者と異なっていると考えられることから,本研究では車椅子バスケットボール選手を対象とした。その結果,車椅子バスケットボール選手は健常者と比較した場合BMRが低値を示すことが明らかになった。さらに車椅子バスケットボール選手はスポーツ活動をしていない脊椎損傷者と比較すると上腕の発達の違いによってBMRが高い値を示すことも明らかになった。従ってエネルギー所要量を考える際にはこれらのBMR特性を考慮に入れなければならないと考えられる。
103	DHA含有食品が注意欠陥/多動性障害児に及ぼす影響		平山論 (倉敷市短大), 浜崎篤仁 (富山医大 薬大和漢薬研), 寺沢捷年 (富山医大 薬大 和漢薬研)	脂質栄養学 JST資料番号:L1620A ISSN:1343-4594	Vol.12, No.2, Page.151 (2003.08.20)	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
104	当医療センターにおける摂食・えん下機能障害外来の状況について		はい,島桂子, 北川有佳里, 内藤克美 (県西部浜松医療セ 歯科口腔外科), 岡本康子 (県西部浜松医療セ 栄養科)	全国自治体病院協議会雑誌 JST資料番号:F0156B ISSN:0389-1070	Vol.42, No.8, Page.85-89 (2003.08.01) 写 図表参:写図9, 表3	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
105	リハビリテーションの新时代 第5回 回復期リハビリテーション病棟運営の工夫		橋本洋一, 山越高宏, 藤田陸博, 近江志保 (苫小牧東病院)	GP Net JST資料番号:Z0655A ISSN:1341-4690	Vol.50, No.5, Page.64-68 (2003.08) 写 図表参:写図9, 表1	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
106	歯学部附属病院口腔介護リハビリテーションセンターにおける摂食・えん下障害者に対する対応		菊谷武, 西脇恵子 (日本歯大 歯病院口腔介護・リハビリテーションセ)	特集号 歯学 JST資料番号:L4779A ISSN:0029-8484 CODEN:SHIGAZ	Vol.90, 春季, Page.23-26 (2003.03.31) 写 図表参:写図8, 参3	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
107	高齢社会における疾病予防食品と介護食品の開発 高齢社会における介護訓練食の意義		渡瀬峰男 (食品グル研)	食品工業 JST資料番号:G0204A ISSN:0559-8990	Vol.46, No.15, Page.41-49 (2003.08.15) 写 図表参:写図1, 参20	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
108	摂食障害を持つ栄養科学専攻女学生における低血清レプティンレベル	Lower serum leptin levels in female students of the nutritional sciences with eating disorders.	FREY J, DUNCKER S, ROSE F, REMSCHMIDT H, HEBBERAND J (Univ. Marburg, Marburg, DEU), NEUHAEUSER-BERTHOLD M, ELLIS S A (Justus-Liebig- Univ. Giessen, Giessen, DEU), BLUM W F (Univ. Childrens' Hospital Giessen, Giessen, DEU), GELLER F (Philips Univ.	Eur J Nutr JST資料番号:G0430B ISSN:0388-127X	Vol.42, No.3, Page.142-148 (2003.06) 写 図表参:表3, 参51	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。
109	重症心身障害児の栄養管理のための外科手術	The surgical operations for nutritional administrations in neurologically impaired patients.	高橋茂樹, 谷水長丸, 里見昭 (埼玉医大 病院小児外科), 鈴木郁子, 丸木和子 (毛呂病院光の家)	JPN JST資料番号:G0430B ISSN:0388-127X	Vol.25, No.2, Page.99-103 (2003.02.10) 写 図表参:写図3, 表4, 参12	脂質栄養学における心身障害児には摂食・えん下機能障害が認められることが多い。このように小児を対象とした摂食・えん下機能障害外来を歯科口腔外科内に開設し,歯科医師・歯科衛生士と栄養士・医師等が連携を持って対応している。今回,当該科を受診した15歳以下の小児41名を対象に外来の対応状況をまとめた。受診した患者のほとんどは運動発達遅滞・精神発達遅滞などの障害を重複していた。また患者の多くが顎顔面口腔領域の形態や歯の異常を有しており,歯科医師と歯科衛生士の協働による対応の重要性が示された。発達療法的な考え方を基に,歯科医師と歯科衛生士が摂食・えん下機能訓練・指導を行った結果,経管栄養から離脱することができた。摂食機能を獲得するものが認められるようになった。

障害者サービス領域における栄養に関する先行研究

和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻ページ (発行年月日)	抄録
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児の栄養管理のた めの胃ろう造設の是非	Gastrostomy for Nutritional Support in Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities.	世川修, 松尾真吾, 木村朱里, 亀岡信悟 (東京医大小児外科 第二外科)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.93-97 (2003.02.10) 写図表参: 写図1, 表2, 参9	重症心身障害児の栄養管理の是非について概説した。胃ろう造設の適応に関し、経腸栄養剤の投与ルートと比較検討した。胃ろう造設前の造影検査におけるポイントを示した。胃ろう造設後の手技の実際として腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃ろう造設術について解説した。更に、胃ろう造設後の管理と合併症について言及した。
重症心身障害児の栄養管理 経管栄養児の口腔内環境管理	Oral Management in Tube-fed Children.	埴田百寿子, 杉山久 (日本歯大 小児・矯正歯科)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.87-91 (2003.02.10) 写図表参: 写図3, 表2, 参16	経管栄養児の口腔内環境管理について検討した。障害児施設において経管栄養児の口腔内を経口栄養剤と比較した。舌の軟化、歯垢・歯石の着着状況、及びストロプトコッカス、エントロコッカス菌の菌数について検討した結果を示した。また、自然脱落した乳歯の誤えん、誤飲等について述べ、自験例(8歳児)を呈示した。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児における経鼻十二指腸カテーテル栄養時の食後性低血糖症-αグルコシダーゼ阻害剤の有用性	Postprandial hypoglycemia/late dumping syndrome on tube feeding in severe handicapped children- Effect of α glucosidase	出島直, 松原為人 (京都保健会 京都民医連 中央病院)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.83-85 (2003.02.10) 写図表参: 写図1, 表1, 参14	胃食道逆流症を伴う重症心身障害児(3歳児)に対して経鼻十二指腸カテーテルによる経腸栄養を行った。しかし、注入時間の延長では食後性低血糖症を防止できなかったため、αグルコシダーゼ阻害剤を投与した。注入前投与では低血糖が生じたため、ミルグに混合して投与したところ改善を見た。また、副作用は認めなかった。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児(者)における経腸栄養	Enteral Nutrition in Patients with Severe Motor and Intellectual Disabilities.	徳光亜矢, 平元東, 楠祐一 (北海道 札幌 育園 小児科)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.77-81 (2003.02.10) 写図表参: 参28	重症心身障害児(者)における経腸栄養について概説した。経腸栄養の適応(摂食・えん下障害、消化管通過障害)とその方法について述べた。重症心身障害児(者)における経腸栄養の特徴(経腸栄養中に欠乏しやすい栄養成分(微量元素、ビタミン、長鎖不飽和脂肪酸、食物繊維))について解説した。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児(者)における微量元素	Trace Elements of Nutrition in Patients with Severe Motor and Intellectual Disabilities.	PAKU S (国立松本病院 小児科), 稲葉雄二, 小宮山海 (信州大 医 小児医学), 河野千夏, 原洋治, 塚田昌滋 (国立療養所 中信松本病院), 山崎宗広	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.69-75 (2003.02.10) 写図表参: 写図3, 表2, 参14	重症心身障害児(者)における微量元素管理の特徴と欠乏症の治療について概説した。重症心身障害児・者の微量元素について述べた。微量元素における欠乏症とその対策として、亜鉛、銅、セレン及びその他の微量元素について述べた。自験例で行った栄養形態による微量元素濃度の比較について解説した。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児の至適投与熱量と栄養基質	Optimum energy and nutrient intake in severe handicapped children.	竹谷豊, 武田英二 (徳島大 医 病態栄養)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.63-67 (2003.02.10) 写図表参: 表3, 参25	重症心身障害児の至適投与熱量と栄養基質について概説した。重症心身障害児のエネルギー消費量、及びエネルギー必要量について解説した。Duchenne型進行性筋ジストロフィー(DMD)患者のエネルギー消費量と栄養基質について述べた。更に、DMD患者のエネルギー代謝こう進の関連因子、及び栄養状態と栄養管理について解説した。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児の至適投与熱量と栄養基質	Nutritional management of critically ill children.	中屋豊 (徳島大 医 特殊栄養)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.57-62 (2003.02.10) 写図表参: 写図1, 表1, 参8	重症心身障害児(主に小児)における栄養管理について概説した。栄養評価について述べた。栄養必要量としてエネルギー所要量、蛋白質、水分、脂質、ビタミン、及び微量元素について解説した。また、栄養管理として、経口栄養管理、経腸栄養管理、及び静脈栄養管理について述べた。更に、栄養不良状態に対する評価とその対策、経管栄養剤の課題等について解説した。
重症心身障害児の栄養管理 重症心身障害児(者)のQOL向上への栄養管理	Management of nutrition in children or persons with severe motor and intellectual disabilities(SMID) for improvement of Quality Of life	口分田政夫 (第一びわこ学園 小児科)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.25, No.2, Page.49-56 (2003.02.10) 写図表参: 写図5, 表4, 参10	重症心身障害児(者)におけるQOL向上のための栄養管理について概説した。栄養が臨床症状に影響を与えた2症例(20歳と22歳女性)を提示した。重症心身障害児(者)における脂肪の蓄積状態の評価と栄養学的な意味、及び障害者のタイプによる栄養の課題について述べた。更に、栄養不良状態に対する評価とその対策、経管栄養剤の課題等について解説した。
神経性の機能障害成人における栄養管理	Measuring taste acceptance in neurologically impaired adults	PELLETIER C A, LAWLESS H T (13 Chelsey Circle, NY, USA)	Food Qual Prefer JST資料番号: W0038A ISSN: 0950-3293	Vol.14, No.7, Page.595-602 (2003.10) 写図表参: 写図4, 表2, 参22	神経性の機能障害成人は味覚受入性に乏しいために、仮らに勧められている治療食に不満を述べたり断つたりすることがある。9ポイント評価尺度及び機械的好悪の表情で表した評価尺度(CuFS)の2つの評価尺度を用いて3つのグループ間の味覚受入性を比較評価した。ナーシングホーム居住者群はCuFSに比べて9ポイント評価尺度の使用に制限及び入院前より援助を必要とした。全グループにおいて9ポイント評価尺度はCuFSより短時間で済み、酸濃度変化による味覚受入性変化の追跡に優れていた。甘味の追跡は2つの尺度より短時間で済み、酸濃度変化による味覚受入性変化の追跡に優れていた。甘味の追跡は2つの尺度より短時間で済み、酸濃度変化による味覚受入性変化の追跡に優れていた。
えん下障害者用食事のための市販増粘剤含有飲料のテクスチャーおよびフレーバー特性	Texture and Flavor Characteristics of Beverages Containing Commercial Thickening Agents for Dysphagia Diets.	LOTONG V (Chulalongkorn Univ., Bangkok, THA), CHUN S S (Sunchon National Univ., Jeonnam, KOR), CHAMBERS E IV, GARCIA J M (Kansas State Univ., KS)	J Food Sci JST資料番号: C0005A ISSN: 0022-1147 CODEN: JFDAZ	Vol.68, No.4, Page.1537-1541 (2003.05) 写図表参: 表6, 参17	えん下障害者が飲料摂取し易い様に原料の増粘剤が使用されることが多い。その飲料について原料増粘剤を用いて蜂蜜のコンセンサテンションを持つ増粘剤の飲料を調製した。これらの飲料について記述式官能検査を実施した。製造された製品に対する粘着性は増粘剤の種類によって異なっていた。増粘剤の添加により元の飲料の主フレーバーが抑えられ、全製品も濃粉臭が感じられ、オフフレーバー、苦味、および粒テクスチャーなどの品質低下要因が発生した製品もあつた。その官能検査結果は品質改善のため必要である。その健康を維持し、社会復帰に必要機能回復訓練の効果をも高め、さらに生活習慣病や加齢に伴う二次的障害の発症を予防する上で、その食生活と栄養の美態を的確に把握し、適切な栄養管理を行うことは、極めて重要な課題である。身体障害者審議施設に入所している男性重度身体不自由者(平均46.8±10.7歳)について、その蛋白質栄養状態、総たんぱく質の蛋白質代謝、及び重症度平均維持量を調べた。1日総エネルギー消費量に占める身体活動による割合は、約15%の著しい低値を示した。窒素排出率維持に必要な日常混合蛋白質量は、1.19g/kg BWと試算された。蛋白質の見かけの消化吸収量は78-81%の特
生活習慣病予防のための日本人のタンパク質必要量に関する基礎的研究 5. 成人のタンパク質必要量に及ぼす生活活動強度低下の影響	The basic research on protein requirement of Japanese for the lifestyle habit illness prevention. 5. The effect of the intensity of daily activity lowering on the protein	藤田美明 (川崎医療福祉大)	生活習慣病予防のため日本人のタンパク質必要量に関する基礎的研究 5. 成人のタンパク質必要量に及ぼす生活活動強度低下の影響 分相研究報告書 JST資料番号: N20030715	Page.96-101 (2002) 写図表参: 写図1, 表5, 参2	生活習慣病予防のため日本人のタンパク質必要量に関する基礎的研究 5. 成人のタンパク質必要量に及ぼす生活活動強度低下の影響









	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
154	身体障害者の肥満コントロールへの取り組み 食事摂取エネルギーの実践からの一考察		赤木公子 (身体障害者看護施設すげさわの丘)	山形県公衆衛生学会講演集 JST資料番号: L2022A	Vol.27th, Page.37-38 (2001.03.01) 写図表参:写図1,表4	山形県西部にある標記すげさわの丘は定員70名の重度身体障害者療養施設で、ほとんどの入所利用者は車椅子を使用している。当該施設における体重測定の結果、全体の2割強が理想体重を上回り、いわゆる肥満であることから、食事摂取エネルギーの肥満改善に取り組んだ。平成6年10月から平成12年10月にわたりその効果を調査した結果、血中脂質の総コレステロール値と中性脂肪値に明らかな減少がみられ、相対エネルギーに対して栄養素の配分、食品の選択、調理法などにより改善の結果が得られたと見られ、栄養指導については特に、おやつやお菓子の量と自己管理、面会時のおやつや制限、滞在による体重増加など、入所者や高齢者や高齢者用のえん下食を開発した。えん下開閉食として使用されているセラチンゲルの動的粘弾性に類似した混合ゲルを提示した。その結果、キサンタンガムにジェランガム、L-カラギーナン及びおこりの寒天を加えた混合ゲルがえん下食の基礎となるゲルとして適していることを明らかにした。えん下開閉食や高齢者は、それぞれえん下機能が異なることから、えん下開閉食から始まるえん下食の分類が重要である。キサンタンガムとジェランガムの混合比9:1の混合ゲルはえん下開閉食の基礎に、混合比が7:3までの混合ゲルは、えん下食1の基礎に分類できるものであった。
155	えん下開閉食および高齢者に向くゲル状えん下食の開発に関する研究 11 ゲル形成能をもつ多糖類とキサンタンガム混合ゲルの動的粘弾性		渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.44, No.5, Page.80-88, 89-93 (2001.03.15) 写図表参:写図10, 参30	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
156	21世紀の医療を担う医薬品情報 展開 保険薬局の担う医薬品情報の展開		山口路子 (札幌薬師会)	薬局 JST資料番号: Z0671A ISSN: 0044-0035	Vol.52, No.3, Page.1212-1219 (2001.03.05) 写図表参:写図6, 参11	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
157	高齢者食、介護食開発のヒント		松崎政三 (東京厚生年金病院)	任語時報 JST資料番号: F0380A ISSN: 0410-9716 CODEN: KJHDX	Vol.80, No.2, Page.96-110 (2001.02.01) 写図表参:表5	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
158	社会資源 こそまで使える! 5 患者の立場から見た社会資源利用への展望		小林孟史 (全国腎臓病協議会)	透析ケア JST資料番号: L3758A ISSN: 1341-1489	Vol.7, No.3, Page.248-253 (2001.03.01) 写図表参:写図2, 表3	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
159	介護保険による在宅ケアの様子 和歌山 自己完結型ではない地域循環型医療と福祉のネットワーク		中嶋啓子 (在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク)	月刊総合ケア JST資料番号: L1824A ISSN: 0916-7013	Vol.11, No.2, Page.6-10 (2001.02.15) 写図表参:表2	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
160	えん下開閉食および高齢者に向くゲル状えん下食の開発に関する研究 10 えん下食の分類 (えん下食1) シリウス キサンタンガム・アラビアガム混合ゲル えん下開閉食としてのセラチンゲルとの比較		渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.44, No.3, Page.68-75 (2001.02.15) 写図表参:写図5, 参24	現在、高齢者食や介護食はどのような食品が製造され、利用度の高い食品はどのような食品なのかを理解するために、設立することを目的として、以下の解説を実施した。食事摂取に及ぼす加齢の影響、高齢者の栄養状態及び介護食の必要性を解説し、えん下開閉食により生じる問題点、えん下開閉食の評価と判定、高齢者の栄養補給及び食品採取時の注意点を訓練食を説明した。また、えん下開閉食の食事の必要性と好ましい食品形態、えん下開閉食の利用及び高齢者の摂取機能レベルと食事形態、食品を取り組んでいる事業として次の2つの事業がある。1) デザインによる専門家による無料電話サービス「生活・福祉相談」栄養・食事相談を定期的に行う。2) つめは、通院支援事業を行っている。1-腎機能障害者の介護保険利用の現状を介護保険開始3か月後に進んだ結果、利用者は糖尿病性腎症が原因疾患の要介護認定でも重度の患者が多く、次に慢性糸状体腎炎で軽度の患者が多かった。1)の場合、透析施設の関係から施設利用が極端に少なく、1)の施設サービスの利用が難しいことが判明した。1)の施設サービスの利用は制度的にも実態的にも利用条件が困難であり、加えて1)の施設入所も厳しく、要介護0の通院患者は、本大会は病院を母体とする全国地域医療研究会との共催で、診療所(0)と病院とが同一地帯を報告した。多くの課題を維持継続するためのチーム訪問とネットワークで支援する医療であり、今後の在宅医療は介護保険を積極的に利用する必要があることを示唆した。介護保険の質点について論議された問題点を紹介した。1)の自己完結型大型複合施設は問題点が多く、色々な機関と地域域型ネットワークを構築する必要がある。キサンタンガム(X)・ローカスターガム(L)混合系およびキサンタンガム(X)・アラビアガム(G)混合系の動的粘弾性とえん下開閉食に適するセラチンゲルの動的粘弾性とを比較し、両者の機能性を考察した。各2%水溶液で構成糖 構造(コンホモーション)ゲル化特性を説明し、体積比の異なる混合ゲルを作成して貯蔵弾性率や損失正接と周波数の関係性を調べた結果、2%Xと2%Gの混合比が9:1及び7:3のゲルと2%Xとアラビアガムを添加した場合は混合比9:1がえん下開閉食として最適であった。
161	和雑誌特集Zoom Up 8 えん下開閉食		稲村充則 (埼玉協同病院)	ほすびたるらいびらありん JST資料番号: L2027A ISSN: 0288-4496	Vol.25, No.4, Page.277-280 (2000.12.25) 写図表参:写図1, 表1, 参2	最近、高齢者・えん下開閉食のリハビリテーションに対する関心が高まり、多くの施設で取り組んでいる。えん下開閉食は呼吸器の合併症と栄養障害を引き起こし、生命の危険に直結するため、慎重な対処が必要である。疾患・えん下開閉食のメカニズム、疾患・えん下開閉食とは、腸卒中のえん下開閉食、えん下開閉食の評価とリハビリテーション、えん下開閉食の栄養方法、それぞれについて説明した。適切な治療・アプローチによって食事や生活が改善されるようになることは、患者の楽しみ・QOLの向上にとって望ましいことである。
162	肥満をともなう精神発達遅滞患者の歯科治療時の全身麻酔管理 和歌山 歯 障害者歯科診療センター	An experience in General Anesthesia for Dental Treatment of an Obese Mentally Retarded Patient.	四戸豊, 佐藤裕, 佐藤雅仁, 城茂治 (岩手医大 歯), 久慈昭慶 (岩手医大 歯 障害者歯科診療センター)	岩手医大歯学部学雑誌 JST資料番号: S0763C ISSN: 0385-1311	Vol.25, No.3, Page.307-311 (2000.12.26) 写図表参:写図1, 参8	最近、高齢者・えん下開閉食のリハビリテーションに対する関心が高まり、多くの施設で取り組んでいる。えん下開閉食は呼吸器の合併症と栄養障害を引き起こし、生命の危険に直結するため、慎重な対処が必要である。疾患・えん下開閉食のメカニズム、疾患・えん下開閉食とは、腸卒中のえん下開閉食、えん下開閉食の評価とリハビリテーション、えん下開閉食の栄養方法、それぞれについて説明した。適切な治療・アプローチによって食事や生活が改善されるようになることは、患者の楽しみ・QOLの向上にとって望ましいことである。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

和文標題	英文標題	著者名	資料名	発行年月日	抄録
在宅における口腔ケアの有用性と包括ケアの重要性についての考察 (厚生省)		楠清子 (ひばり訪問看護ステーション), 小西史人 (石巻歯科クリニック), 宮次博一, 池崎美紀子, 吉田ちさ子 (三沢市三沢病院), 古田輝折 (三沢市福祉事務所), 馬場照子 (ひばり苑), 織笠加奈子 (ひばり苑在宅介護支援セ), 阿部テ子 (弘前大 教員)	研究支援小委員会報告書 平成11年度 実践と研究の架け橋へ JST資料番号: N20003234	Page.15-23 (2000) 写図表参: 写図2, 表3	高齢障害者の多くはえん下障害や口腔内病変による摂食困難を伴い, 慢性的低栄養状態やえん下による肺炎を引き起し, ADL低下や長期の状態不良の原因となっている。在宅患者5名を対象に, 質食・えん下リハビリテーションの一環として, 口腔ケア評価表を用いてケアを実施した。その結果, 受け入れ側の理解・認識が得られると共に, ケア従事者が共通の認識を持って包括的にケアを提供でき, 5名中4名に効果的と認められた。マンパワーの確保, ケア従事者や患者・家族の認識不足, ケアシステムの問題点等, 今後の課題も明らかになった。包括ケア推進のためには, これらの改善対策が必要であることを示唆した。
障害をもった児に対するピア教育による下食指導の有用性		渡辺章亮, 渡部誠一, 福田隆夫 (茨城県厚生連 土浦協同病院)	茨城県農村医学会雑誌 JST資料番号: L2664A ISSN: 09115-1982	Vol.13, Page.8-11 (2000.11.09) 写図表参: 写図1, 表2, 表3	経口摂取ができず, 経管栄養施行中の児7例, および進行性の経口摂取が困難になつてきた児3例に対して, 観察検査(0)を実施し, 摂食指導を行った。障害児に対する摂食指導は所見を参考にすることで, 一般総合病院においても安全に行うことが可能であった。長期に経管栄養に依存していた症例でも経管からの離脱が可能になった。
えん下障害者および高齢者に向くグルク状態えん下食の開発に関する研究 9 えん下食の種類(えん下食1)シリーズ えん下食の基礎に向く種々の増粘多糖類水溶液の構造と機能特性		渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.44, No.1, Page.66-72, 73-77 (2001.01.15) 写図表参: 写図6, 参19	えん下に適したグルク状態食品開発のために, 増粘多糖類としてキサンタンガム, コーンにやくマンナン, ローカストロビンガム, ジェラチン, えん下と動的粘弾性を調べた。各多糖類の濃度, 温度, 周波数と動的粘弾性の関係を示した。えん下開始食にはゼラチンが良好であるが, ゼラチンゲルに多糖類を添加して, 次点である20℃以上での融解を防止した。評価は貯蔵弾性率, 損失正接, 動的粘弾性によって行った。これらの多糖類添加で種々の特徴を持つたえん下食品開発が可能である。
健康人の食物摂取や血しょうビタミンC濃度は, 慢性的なまた非進行性身体障害で低下する	Dietary intakes and plasma concentrations of vitamin C are lowered in healthy people with chronic, nonprogressive physical disabilities.	CAHILL, K M, SUCHER K (San Jose State Univ., Calif.), BURRI B J (Univ. California, Davis)	J Am Diet Assoc JST資料番号: H0466A ISSN: 0002-8223 CODEN: JADAAA	Vol.100, No.9, Page.1065-1067 (2000.09) 写図表参: 写図1, 表1, 参16	急性の, 慢性的なまた非進行性身体障害を持つ人の, 食物摂取や血しょうビタミンC濃度を障害を持たない人のそれと男女146人について比較検討した。その結果, 標題の結論に至った。
えん下障害者および高齢者に向くグルク状態えん下食の開発に関する研究 8 低分子重量天グル, 低3,6-アンヒドロ-L-ガラクトースを含む養天グルおよび増粘剤添加による混合グルの動的粘弾性		渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.43, No.23, Page.64-75 (2000.11.15) 写図表参: 写図6, 表1, 参19	養天グルの機能と構造について考察し, えん下食に適するグルになる養天の構造要件を指摘した。種々の養天について, 動的粘弾性測定を行い, 臨床における結果との関連を調べた。えん下食に使用するには, 養天を分子重量10万以下にするか, 高分子量の場合は増粘剤を使用して混合グルとした。えん下食に使用した。3,6-アンヒドロ-L-ガラクトース含量が27-30%の養天グルは, えん下食の基礎として優れている。
透析患者の栄養と食事の選択 食品・外食・中食・宅配食 IX えん下障害者の食事		山かおり, 金谷節子, 北条京子, 藤島一郎 (聖隷三方原病院)	臨床透析 JST資料番号: X0146A ISSN: 0910-5808	Vol.16, No.13, Page.2031-2037 (2000.11.10) 写図表参: 写図4, 表1, 参3	質食・えん下障害者は高齢化の進んでいる透析患者にも徐々に増えつつある。えん下障害者を早期に発見し, チームアプローチによる適切なリハビリテーションプログラムと栄養ケアを行うことが重要である。そのようなことにより, えん下障害者の栄養状態の悪化を防ぎ, 有効な接食・えん下訓練も可能となる。透析患者のえん下障害では, 食事管理もさらに複雑となるであろうが, 基本はほかの透析患者同様, 栄養アセスメントを行い, 品質管理された高栄養のえん下食を提供することであろう。
えん下障害者および高齢者に向くグルク状態えん下食の開発に関する研究 7 えん下食の種類(えん下食1)シリーズ Ca 2+ およびMg 2+ を添加した低Mg キシリペクチンゲルの動的粘弾性		渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.43, No.21, Page.62-70 (2000.11.15) 写図表参: 写図8, 参20	えん下が困難になった高齢者に, 食事が苦痛にならないようにするえん下食は5段階に分類される。Ca 2+ およびMg 2+ を添加した低Mg キシリペクチンゲル(0)は, えん下食1に分類される。ペクチンの構造と機能を説明し, 0の動的粘弾性についての実験結果と考察を紹介した。えん下造形検査と動的粘弾性の関係から, えん下食の分類の重要性を指摘した。また, 試料の精製度が物性変化に大きな影響を持つことを指摘した。
脳神経疾患患者の退院指導と在宅医療 在宅療養に向けての援助 4 在宅医療と各職種の役割 在宅医療における栄養士の役割		上田真由実, 林美里, 守本順子, 上山映子 (公立入鹿病院)	Brain Nurs JST資料番号: X0104A ISSN: 0910-8459	Vol.16, No.3, Page.358-364 (2000.02.15) 写図表参: 写図4, 表1, 参1	公立入鹿病院で行っている障害者に対する食事の退院前指導, 在宅訪問指導, 在宅訪問における栄養士の役割を脳卒中, 神経障害患者を中心に紹介した。最初に, 退院前に行う栄養士によるえん下・そしやく困難者, 経管栄養患者などの食事状態の把握, 並びに患者, 介護者あるいは食事調理する同居者に対して行う退院指導について述べた。経管栄養患者へのミキサー生食は有効と考えた。次に, 訪問栄養指導の実際について, 訪問対象者の基礎疾患, 食糧分類, および訪問栄養指導の内容の面から述べた。
脳神経疾患患者の退院指導と在宅医療 在宅療養に向けての援助 2 継続看護と他職種との連携 訪問看護の立場から		伊沢けい子 (南但訪問看護セ)	Brain Nurs JST資料番号: X0104A ISSN: 0910-8459	Vol.16, No.3, Page.300-312 (2000.02.15) 写図表参: 写図2, 表9, 参3	南但看護センターが行っている脳血管疾患などの障害者の継続看護, および他職種との連携について述べた。最初に, 公立入鹿病院が行ってきた訪問看護を引き継いで開設された同センターの概要, 訪問看護活動の現状を説明した。次に, 継続看護の実際を事例を交えて紹介するとともに, 開業医, 訪問リハビリテーションスタッフ, 訪問薬剤師, 訪問看護衛生士, 訪問管理栄養士, ホームヘルパーとの連携の実際について事例を含めて述べた。障害者の生活を支えていく上で, 保健・医療・福祉などの職種と良い連携をとることが, 訪問看護職としての大事な役割であると考えた。





	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻ページ (発行年月日)	抄録
192	えん下障害者に向く食肉および魚肉の機能特性性 えん下障害者への官能試験と動的粘弾性の関係	Functionalities of Animal Meat and Fish Meat Suitable for People Having Difficulty in Swallowing. Relationship Between Organoleptic Test and Dynamic Viscoelasticity.	渡瀬峰男 (静岡大 農)	食品工業 JST資料番号: G0204A ISSN: 0559-8990	Vol.42, No.23, Page.64-71 (1999.11.15) 写図表参: 写図8, 表3, 参31	栄養補助用としてえん下開始食に向く食肉および魚肉を調製し、えん下障害者の官能試験と動的粘弾性の関係を考察した。えん下食のノルマルゲル状態を解凍し、非加熱食品(ペースト状生ハム)とまぐろたらちを赤身にサラダ油5%, 20%添加時の影響をG', tan $\delta$ および $\eta'$ と周波数の関係で明らかにした。えん下開始食に向く条件はtan $\delta$ , $\eta'$ と周波数の関係が線型性が成立し、G' の値は10 <sup>4</sup> Paを越えず $\eta'$ は10 <sup>-3</sup> poise以上である。0.1mm以下に細切した時にサラダ油が肉全体に均一に分布した。
193	身体障害者のタンパク質・エネルギー栄養状態(予報)	The Protein Energy Nutritional Status of Disabled Male Adults(Preliminary report).	荒木裕子, 藤田美明, 守田哲朗 (川崎医療福祉大 医療技術)	必須アミノ酸研究 JST資料番号: Y0620A ISSN: 0387-4141	No.155, Page.5-8 (1999.11) 写図表参: 写図2, 表2	身体障害者の栄養状態の実態を明らかにし、既存の評価法が身体障害者の栄養状態評価にも適用できるか否かについて検討した。対象男子51名の平均BMI及び体脂肪率は、それぞれ19.8±3.3及び26.4±9.7%であった。BMIの有用性や基礎値の妥当性について再評価が必要であった。野菜及び代謝試験の結果、エネルギー出入納量はタイプA(四肢機能に障害を抱え、廃用性筋萎縮), タイプB(体幹部及び四肢部ともに廃用性筋萎縮をきたし、強度の低い)であった。タイプA及びタイプBのクレアチニン排泄率、水分と栄養補助用のゲル状態及びペーペースト状食品の物理的性質を解説した。寒天のゲル化機構、ゼラチンゲルの形成能に与える糖と塩の影響、ゼラチン-多糖類混合糸の等電点を検討した。また栄養補助用としてまぐろたらち赤身及び脂身に加える添加油量の影響を検討した。その結果、ゲル状及びペーペースト状食品は貯蔵弾性率(G'), 損失正切(tan $\delta$ )及び $\eta'$ / G' の周波数の関係が線型性を示し、同食品は均質で、溶媒が均一に分布していることが判明した。食塊の分子鎖間は弱い凝集力が働き、食圧で鎖間相を通過する際、小さな応力で大変形した。tan $\delta$ 値が小さくなると食塊が堅く感じられた。
194	えん下障害者および高齢者に向くえん下食の開発の研究 基礎と応用 2 種々のえん下食に対する官能試験と動的粘弾性の関係	Research on development of deglutition foods suitable for deglutition disorder persons and the elderly. Fundamentals and Applications (2). Relations between sensory evaluation and dynamic viscoelasticity	渡瀬峰男 (静岡大 農)	New Food Ind. JST資料番号: F0354A ISSN: 0547-0277	Vol.41, No.11, Page.1-11 (1999.11.01) 写図表参: 写図11, 表1, 参38	えん下障害者および高齢者に向くえん下食の開発の研究 基礎と応用 2 種々のえん下食に対する官能試験と動的粘弾性の関係
195	ドコサヘキサエン酸 失認症・注意欠陥障害や統合失調症を持つヒトにとって不可欠な食物因子	Docosahexaenoic Acid: A Dietary Factor Essential for Individuals with Dyslexia, Attention Deficit Disorder and Dyspraxia?	STORDY B J (Sturdy Jones Nutrition Consultants, Guildford, GBR)	Spec. Publ. R. Soc. Chem. JST資料番号: B0186B ISSN: 0577-618X	No.244, Page.102-114 (1999) 写図表参: 写図3, 表5, 参29	1976から93年にかけて米国内では学習障害者が3倍にもなっているとの観測があるが、その基礎には何らかの因子特に食物因子の関与が考えられる。本稿では観測の症状とDHA等との関連について近年の知識をとりまとめた。
196	アミノ酸の最新機能研究 アミノ酸12種類混合物の生理機能研究 長距離エリート選手及び脳血管障害者を対象として	Latest Research of Function of Amino Acid. Physiological Effects of Ingesting of 12 Kinds of Amino Acids Mixture. Elite Long Distance Runners and Cerebrovascular Disease Patients.	大谷勝 (東大 大学院)	食品と開発 JST資料番号: Z0786A ISSN: 0911-3932	Vol.34, No.10, Page.4-8 (1999.10.01) 写図表参: 写図8, 表2, 参31	人体におけるアミノ酸とその薬理作用に触れ、過酷なスポーツであるマラソン/ハルビリマラソンにおける疲労の軽減、疲労回復に必要となる栄養素、アミノ酸による疲労の軽減及び免疫力低下の予防について述べた。また、スポーツ選手のアミノ酸摂取による血中乳酸濃度、肝機能指標、筋肉損傷指標、質分解指標の低下を説明し、脳血管障害者のアミノ酸長期摂取によるリハビリテーションの効果及び免疫力のアップを紹介した。
197	経管栄養児者における歯科疾患のリスクに関する研究 第1報 歯科疾患患患状況について	Risk of Dental Diseases Among Patients Being Tube-fed. Part 1. Prevalence of dental diseases.	高井裕之, 小笠原正, 大橋征人, 尾崎真理子, 穂坂一夫, 渡辺達夫, 笠原浩 (松本歯大)	小児歯科学雑誌 JST資料番号: Y0025A ISSN: 0583-1199	Vol.37, No.4, Page.671-676 (1999.09.25) 写図表参: 写図5, 表3, 参21	長期経管栄養を行っている重症心身障害児者17例(群)を対象として歯科疾患患患状況の調査を行い、経管栄養が行われていない重症心身障害児者24例(群)と比較検討した。平均年齢は歯生歯数11, 11群でそれぞれ0.1, 0.6歳/年であり、群間で有意に少ないなかった。また歯垢付着状況も群間で有意に低かった。両群とも約6割の者に頬舌面の歯石沈着がみられたが、群の半数以上では頬舌面にも歯石が沈着していた。両群とも軽度歯肉炎に罹患していたものが多かった。以上、経管栄養中では歯垢に対するリスクが少ないが、歯周疾患に対するリスクは高いことを示唆した。
198	えん下障害者および高齢者に向くえん下食の開発の研究 えん下開始食としてのゲル状態食品の機能特性	Maternal stress in caring for children with feeding disabilities: Implications for health care providers.	渡瀬峰男 (静岡大 農), 金谷節子 (理研三原病院), 佐野庄二 (ニッセイテクノ工業)	日本食品科学工学会大会講演集 JST資料番号: Y0057A	Vol.46th, Page.32 (1999.09.06)	えん下障害者による官能試験の結果、えん下開始食の基礎としてゼラチンゲル、全卵系およびえん下開始食の脂身等について、貯蔵弾性率G', 損失正切tan $\delta$ , $\eta'$ / G' の周波数依存性を測定した。えん下開始食に適するゲル状態食品の濃度および温度等の範囲はtan $\delta$ および $\eta'$ / G' とほぼ線型性を示し、勾配はほとんど差がなかった。
199	自分では摂食できない子供を育てている母親のストレスと健康管理プロバイダーとの関係	Maternal stress in caring for children with feeding disabilities: Implications for health care providers.	ADAMS R A, GORDON C, SPANGLER A A (Life Line Children's Hospital, Ind.)	J Am Diet Assoc JST資料番号: H0466A ISSN: 0002-8223 CODEN: JADAAA	Vol.99, No.8, Page.962-966 (1999.08) 写図表参: 表3, 参18	自分では摂食できない子供を抱えている母親のストレスについて、質問形式で調査した。その結果、子供を育てている母親は他人からのサポートが少なく、チューブ栄養では自分が自分で摂食できない子供を抱えている母親よりもストレスが溜まっていることが見受けられた。故に栄養等の健康関連専門家、父親、友人や関係者はこのストレス解消への道を真剣に考え、支援グループを作る等して解決の道を講じなければならぬと感じた。
200	小児専門病院における摂食外来のニーズと対応	A Clinical Survey on the Feeding Therapy Clinic for Children.	増田智美, 北野市子 (静岡県立静岡小児科病院), 松宮依子 (葉面市病院)	能健言語学研究会 JST資料番号: L0206A ISSN: 0912-8204	Vol.16, No.2, Page.80-86 (1999.08.30) 写図表参: 写図8, 参3	摂食外来では、患児の示す食事に関する問題が多岐にわたることから、院内の多職種がコアチームを作り診療に当たっている。摂食外来のスタッフは、医師、歯科医師、歯科衛生士、言語治療士、臨床心理士、栄養士、理学療法士、作業療法士である。今回、192名の患児について病歴、摂食困難を主として調査を行った。摂食外来の利点としては、スタッフが直接すべての母子に接しなくても、担当以外の母子の様子も把握できる機会があるという点などである。この調査を通じて、食事に関する援助が決して「訓練」的な位置づけだけでは解決しえないことが明らかとなった。ST自身が自己の資源の限界を吟味を主体的に行い、自己の臨床感や立場を明確にした上で措置に当たることが必要であると考察した。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

(25/48)

和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
21世紀の理想的な高齢者像への手立て 高齢社会の実像	Approach to ideal image of the elderly in the twenty-first century. Real image of the aged society.	柴田博 (東京都老人総研)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.42, No.9, Page.521-530 (1999.09.01) 写図表参:写図8, 表3, 参5	高齢社会の実像について概説した。内容は、1)高齢者の健康を取り巻く諸問題(世代間の問題、障害者へのサポートの意義、サポーターの授受)、2)高齢者の健康の目標と手立て(自立から社会貢献へ、生きがいとは何か、高齢者の健康増進であった。高齢者の健康を増進させる手立ての枠組みとしては、食生活と栄養、生涯体育、社会参加、知的活動、物的環境を挙げた。
静岡県内の知的障害者更生施設における赤痢アメーバ感染の実態調査	Survey of Amebiasis at an Institution for the Mentally Retarded in Shizuoka Prefecture.	寺井克哉, 川村朝子, 三輪重水, 増田高志, 宮本秀樹 (静岡県環境衛生科 研), 堀涉 (静岡県西部食肉衛検)	静岡県環境衛生科学研究報告 JST資料番号:F0630A ISSN:1343-246X	Vol.41, Page.13-15 (1999.08.06) 写図表参:写図1, 表3, 参5	知的障害者516人の糞便について鏡検法と培養法の併用により赤痢アメーバ(0)の保有状況を調査した。鏡検法においてE. dispar 糞子を検出され、培養法において鏡検法陽性の4人から染型が検出された。培養型はPCR法により、すべてが同一と判定され、検出率は全入所者で0.8%(4/516)、陽性施設入所者で4.2%(4/96)であった。陽性者4人はすべて無症候性(糞子保有者)で、他の入所者と比べると清潔観念がない入所者であったこと、入所者の有する特異な糞(臭気、弄便など)によりえん下障害者や高齢者でもえん下がスムーズにいくようなゼラチンゲルの構造と機能特性を調べた。濃度が1-3wt%のゼラチンゲル試料を40°Cで一昼夜保持後、60-70°Cで加熱して溶解した。その後、室温まで徐々に冷却してから5°Cの冷蔵庫に一昼夜保持した。冷蔵庫から取り出して20分開放後、及び20°Cで5時間開放後の動的粘弾性測定を行った。濃度に関係なく、20°Cの温度はほぼ20°Cであり、その濃度でG'は1.0 Paであった。この値ではゲルは小さな応力に対して大変形する。さらに20°Cあたりからゲルの融解が生じ、精神障害者のリハビリテーションの過程に、自炊プログラムを実施した。その意義の再確認と実施方法を検討した。自炊は、自分の力でできることは自分でやるという、自立の欲求を満たす活動と考えた。自炊を奨励する中で、必然的に金銭管理、健康管理、衛生、栄養、対人関係、食事時のマナー、体力、疾病、障害等の要素が関わってくる。一人暮らしの精神障害者にとっても単に食生活スタイルの獲得だけでなく、様々な生活上の問題点に触れる機会という意味でも有効的と考えた。分裂障害者の行動特性からみたら、自炊方法として、指示を与えるが干渉しないこと、また基本メニューを繰り返し学習するの種類の増やすこと、静岡県内の知的障害者更生施設におけるEntamoeba histolytica(0)感染状況について調査報告した。検査は、蒸便516検体を対象に顕鏡法、培養法を施行した。その結果、顕鏡法で9施設中1施設の4人からE. disparを検出した。培養型は全て同一と判定され、検出率は、0.8%であった。シズキヤリアにアモニダゾールを投与した。
えん下障害者に向くゲル状食品の構造と機能特性	Structure and Functional Properties of the Gelling Foods Suitable for Swallowing Diseased Pfsont.	渡瀬隆男 (静岡大 農)	高分子学会予稿集 JST資料番号:Z0703B	Vol.48, No.3, Page.591 (1999.05.12) 写図表参:写図1	
精神障害者生活訓練施設における自炊プログラム	Self-cooking program at a daily living training facility for mentally handicapped person.	原田幸子, はい島麻弓, 沼田孝司, 藤沢朋生, 三村卓巳, 野中猛 (埼玉県精神保健総合センター研究紀要 JST資料番号:L2711A)	埼玉県立精神保健総合センター研究紀要 JST資料番号:L2711A	Vol.8, Page.5-6 (1999.01) 写図表参:参2	
静岡県内の知的障害者更生施設における赤痢アメーバの感染状況	Survey of Amebiasis at an Institution for the Mentally Retarded in Shizuoka Prefecture.	寺井克哉, 増田高志, 宮本秀樹 (静岡 県環境衛生科 研)	感染症学雑誌 JST資料番号:Z0760A ISSN:0387-5911	Vol.73, No.6, Page.626-627 (1999.06.20) 写図表参:参4	
消化器疾患におけるヘリコバクター・ピロリ菌感染の疫学的検討と臨床研究 (厚生省S)	IgA and IgG antibody titres culture of Helicobacter pylori from gastric juice, clinical findings and clinical efficacy of triple therapy in Helicobacter pylori infection in severe double handicapped	山田和孝, 長博雪, 岡田祐輔, 広野日善, 小林恵子, 鈴木康之 (鶴岡 小児療養病院), 山崎勉 (埼玉大), 南出和喜夫 (徳島義製薬), 松本高明 (協和メデックス)	重症心身障害における病態の年齢依存性変化とその対策に関する研究 平成10年度研究報告書 JST資料番号:NI9991722	Page.249-254 (1999) 写図表参:表7, 参6	
重症心身障害(児)者の有機酸尿症に関する研究 シカルボン酸尿症の成因と予防 (厚生省S)	Organic aciduria in severe motor and intellectual disabilities patients-cause and prevention of dicarboxylic aciduria.	向後利昭, 金沢正樹 (国立療養所下志津病院), 山本重則 (千葉大 医), 高柳正樹 (千葉大 小児病院)	重症心身障害における病態の年齢依存性変化とその対策に関する研究 平成10年度研究報告書 JST資料番号:NI9991722	Page.100-109 (1999) 写図表参:写図16, 表3	
重症心身障害(児)者の栄養障害による合併症 血清脂質と加齢、性腺機能について (厚生省S)	Associations of serum lipid with aging and sex hormone in patients with severe motor and neurological disorder.	倉繁隆信, 藤枝幹也 (高知大 医), 筒井章夫, 荒木久美子 (土佐希望の家)	重症心身障害における病態の年齢依存性変化とその対策に関する研究 平成10年度研究報告書 JST資料番号:NI9991722	Page.84-91 (1999) 写図表参:写図6, 表3, 参6	
重症心身障害(児)者における血中抗酸化物質の研究 (厚生省S)	Blood Antioxidants Levels in patients with Severe Motor and Intellectual Disabilities.	大村淳, 岡田美穂, 中井博史 (国立療養所西多賀病院)	重症心身障害における病態の年齢依存性変化とその対策に関する研究 平成10年度研究報告書 JST資料番号:NI9991722	Page.78-83 (1999) 写図表参:写図6, 参10	



障害者サービス領域における栄養に関する先行研究

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
218	重症心身障害児(者)のQOLと栄養及び食事等に関する研究 第四報 重症心身障害児施設におけるB型およびC型肝炎ウイルス感染の実態調査(厚生省S)	Study on QOL and nutrition and meal of severely multiple handicapped children (person). The fourth report Field study of B type and hepatitis C virus infection in severely multiple handicapped child facilities. (Ministry of Health and Welfare S.)	山田剛太郎, 床美保, 中田敬一(川崎医大川崎病院), 六田てる朗(国立療養所東徳島病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.261-264 (1998) 写図表 参:表4	2施設においてB型およびC型肝炎ウイルス感染についてウイルス学的,血清学的な実態調査を行った。HBs抗原の陽性率は229名中12名,159名中4名であり,施設間でやや差をみた。HCV抗体の陽性率は4.4%,3.1%であり,前者10名,中5名がHCV-RNA陽性者であった。HCV抗体陽性者の約半数に輸血あるいは手術の既往を認め,重症度の異なる病棟別にはその感染率に差を認めなかったことから,血液を介する感染が有力な原因と考えた。
219	重症心身障害児(者)のQOLと栄養及び食事等に関する研究 第三報 重症心身障害児(者)の栄養評価における血清総コレステロール,アラブミンの意義についての検討(厚生省S)	Study on QOL and nutrition and meal of severely multiple handicapped children (person). The third report Study on the significance of serum whole cholesterol and prealbumin in the nutritional evaluation of seriously handicapped child. (Ministry of Health and Welfare S.)	小倉英郎, 前田治子(国立療養所東高知病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.252-260 (1998) 写図表 参:写図10,表2,参4	重症心身障害児(者)の栄養評価を目的に,血清総コレステロール,血清総脂質,血清総脂質,血清脂質分析,アラブミンを測定した。重症心身障害児(者)は脂肪:エネルギー比が19%と低いと思われる。高コレステロール血症を認めた。一方では,低コレステロール血症を認めた。また,経腸栄養剤単独使用者では,低コレステロール血症が生じやすく,脂防酸については $\omega$ 3系の低値が目立った。血清アラブミンは全体的に低値であり,BMIとの相関を認めなかった。
220	重症心身障害児(者)のQOLと栄養及び食事等に関する研究 第二報 重症心身障害児(者)の一日のエネルギー所要量に関する検討(厚生省S)	Study on QOL and nutrition and meal of severely multiple handicapped children (person). The second report Study on the energy requirement in a day in severely multiple handicapped children (person). (Ministry of Health and Welfare S.)	小倉英郎, 前田治子(国立療養所東高知病院), 杉山みち子(健康・栄養研), 小山秀夫(国立医療・病院管理研), 城福直人(国立療養所香川小児病院), 佐野のぞみ(国立療養所南愛媛病院), 幸田一也(国立療養所東徳島病院), 六田てる朗(国立療養所東徳島病院), 荒木久美子(土佐希望の家)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.245-251 (1998) 写図表 参:写図6,表2,参8	重症心身障害児(者)における食事摂取状況の把握および1日エネルギー必要量について検討した。1日エネルギー消費量の測定には携帯型カロリメーターと24時間心拍モニターを用いた。実際に出されている食事は馬場らの算出法から得られた所要量の平均1.33倍であったが,0.6-2.14倍とばらつきをみた。1日エネルギー消費量は比較的動きの少ない大島分類1の9例を対象の測定したが,馬場らの算出法から得られた値より更に少ない傾向であった。
221	重症心身障害児(者)のQOLと栄養及び食事等に関する研究 第一報 重症心身障害児(者)における微量元素欠乏について(厚生省S)	Study on QOL and nutrition and meal of severely multiple handicapped children (person). The first data Trace element lack in severely multiple handicapped children (person). (Ministry of Health and Welfare S.)	小倉英郎(国立療養所東高知病院), 杉山みち子(健康・栄養研), 小山秀夫(国立医療・病院管理研), 城福直人(国立療養所香川小児病院), 佐野のぞみ(国立療養所南愛媛病院), 幸田一也(国立療養所東徳島病院), 六田てる朗(国立療養所東徳島病院), 山田剛太郎(川崎医大川崎病院), 荒木久美子(土佐希望の家)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.235-244 (1998) 写図表 参:表8,参6	重症心身障害児(者)の微量元素欠乏について,2群:経腸栄養剤長期単独使用群に分類し,血清亜鉛,銅,セレン,マンガン測定し,次之例に対しては欠乏症状の有無を検討した。血清亜鉛,マンガンは同群間に差を認めず,鉄の症例が正常範囲内であった。一方,血清銅,セレンは1群に比べ,2群で明らかに低下していた。血清銅は $40 \mu\text{g/dl}$ 以下の症例が2群では12例中11例認められ,4例で好中球減少症を認めた。血清セレン $20\text{ng/dl}$ 以下の症例が2群で12例中9例認められ,7例が心電図あるいは心エコーで何らかの異常を認めた。
222	重症心身障害児(者)のQOLと栄養および食事等に関する研究 研究(厚生省S)	Study on QOL and nutrition and meal of severely multiple handicapped children (person). (Ministry of Health and Welfare S.)	小倉英郎(国立療養所東高知病院), 杉山みち子(健康・栄養研), 小山秀夫(国立医療・病院管理研), 城福直人(国立療養所香川小児病院), 佐野のぞみ(国立療養所南愛媛病院), 幸田一也(国立療養所東徳島病院), 六田てる朗(国立療養所東徳島病院), 山田剛太郎(川崎医大川崎病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.233-234 (1998)	重症心身障害児(者)のQOLと栄養および食事等に関する検討において,1)重症心身障害児(者)における微量元素欠乏について,2)重症心身障害児(者)のエネルギー必要量の検討,3)重症心身障害児(者)の栄養評価における総コレステロール,アラブミンの意義について,4)重症心身障害児施設におけるB型およびC型肝炎ウイルス感染の実態調査などの研究を行った。
223	重症心身障害児(者)の医療・看護の質的向上に関する研究 レダーチャートを用いた重症心身障害児(者)の病態の把握について(厚生省S)	Study on improvement of quality of medical treatment and nursing of severely multiple handicapped children (person). Grasp of the disease state of severely multiple handicapped children (person) using the radar chart. (Ministry of Health and Welfare S.)	西間三蔵(国立療養所南福岡病院), 宮野前健(国立療養所南東京都病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究平成9年度研究報告書 JST資料番号: NI9991131	Page.172-174 (1998) 写図表 参:写図1,表1,参3	疾患や臓器系統別の合併症や病態のスコア化を行い,レダーチャートで表現することにより個別の重症心身障害児(者)の全体像の把握を試みた。項目として知的レベルおよび運動能力は大島分類の2軸を用い,重症児に問題となりやすい病態を1)呼吸循環器系,2)消化器系,3)栄養代謝,4)神経系,5)筋骨格系,6)易感染性その他の6項目計8項目を設定した。強度行動障害を持つ児や注:意識深い医療ケアが必要な超重症児ではレダーチャートはその特徴的な形より,全体像の視覚的把握に有用であった。

No.	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
224	モロコシとキビ消費地域におけるインドの栄養失調児童のぶどう糖耐性	Glucose tolerance of Indian malnourished children in sorghum and millet consuming areas.	PATOLE A P, AGTE V V (Agharkar Res. Inst., Pune, IND)	Ecol Food Nutr JST資料番号: D0582A ISSN: 0367-0244 CODEN: ECFNBN	Vol.37, No.4, Page.355-362 (1998.12) 写図表参:表2, 参12	インド、マハラシュトラ州の栄養失調児童のぶどう糖耐性に関する実態調査を行なった。1-10才の60名の栄養失調児童について身体的栄養的診断を行なった。ぶどう糖耐性障害者(II)は25名、ぶどう糖耐性正常群(III)は35名であった。WHO基準による栄養失調度格付付けと障害者割合は密接な相関関係が存在し、栄養失調度が高まるとともに障害者割合が増加した。IIの食品摂取エネルギー、蛋白質摂取量はIよりも顕著に高かった。Iのモロコシからのカロリー摂取割合は対照群及びIよりも顕著に高かった。又、含硫アミノ酸は食品由来の毒物の解毒剤として必須であるが、Iの含硫アミノ酸摂取量は対照群、IIよりも顕著に低かった。標型について検討した。すなわち、経管群11名、非経管群11名に対して、歯科疾患の実態調査、唾液分泌能や唾液pH、う蝕に関する口腔内細菌の測定を行った。その結果、経管群はう蝕発生菌数が有意に少なく、S.mutans, Lactobacillus, C.albicansなどの菌活動試験のスコアも低かった。プラークの付着状況と歯肉炎では両群に有意差はなかった。歯石付着状況は経管群は多く付着していた。唾液では両群において有意差は認められなかった。歯周病原菌は経管群へのリスクがあることが示された。運動障害者24例におけるインスリン抵抗性と身体活動量、肥満との関係を検討した。インスリン抵抗性を有する群では、有しない群に比して身体活動量が有意に低下していた。インスリン抵抗性と肥満との間に有意な関係を認めなかった。以上の結果から、運動障害者におけるインスリン抵抗性は、身体活動量の低下を基盤として発現することを示唆した。
225	経管栄養を施された重症心身障害者の口腔管理に関する研究 全身状態と口腔内環境について	Study on Dental Check-up System in Severely Handicapped Tube-fed Patients. General Conditions and Intraoral Environment.	高井 登之 (松本歯大)	聖知学院大学歯学会誌 JST資料番号: Y0095A ISSN: 0044-6912	Vol.37, No.1, Page.207-218 (1999.03) 写図表参:写図7, 表8, 参36	インスリン抵抗性と身体活動量、肥満との関係を検討した。インスリン抵抗性を有する群では、有しない群に比して身体活動量が有意に低下していた。インスリン抵抗性と肥満との間に有意な関係を認めなかった。以上の結果から、運動障害者におけるインスリン抵抗性は、身体活動量の低下を基盤として発現することを示唆した。
226	運動障害者におけるインスリン抵抗性と肥満との関連 (厚生省S)	Insulin resistance in the movement disorder patient (the second report) Relation between physical activity quantity and obesity. (Ministry of Health and Welfare S).	間嶋 満, 近藤 徹 (埼玉医大)	長寿科学総合研究 JST資料番号: J1099A	Vol.1997(6), Page.421-425 (1998.03) 写図表参:参9	在宅慢性呼吸障害者48名を対象とした面接調査により、その食生活の実態を調査した。口腔内の問題や食後の息苦しさなどの問題を抱えつつ、食べることの意義を前向きに捉え、家族の協力の中で食生活を営んでいた。慢性呼吸障害者の食欲と体重の維持を目指す看護介入の必要性を示した。
227	在宅慢性呼吸障害者の食生活援助に関する研究 (厚生省S)	Research on food practice assist of the staying home chronicity respiration disorder person. (Ministry of Health and Welfare S).	小西 惠子, 大久保 いく子, 征矢 野あや子, 太田 勝正 (長野県看護大)	長寿科学総合研究 JST資料番号: J1099A	Vol.1997(6), Page.252-255 (1998.03) 写図表参:参17	在宅慢性呼吸障害者48名を対象とした面接調査により、その食生活の実態を調査した。口腔内の問題や食後の息苦しさなどの問題を抱えつつ、食べることの意義を前向きに捉え、家族の協力の中で食生活を営んでいた。慢性呼吸障害者の食欲と体重の維持を目指す看護介入の必要性を示した。
228	高齢者の救食・えん下機能 摂食・えん下障害に対する簡易質問紙表の開発 (厚生省S)	Eating and swallowing function of the old people Eating. Development of simple questionnaire table for the deglutition disorder. (Ministry of Health and Welfare S).	藤島 一郎, 大能 るり, 神津 玲, 金谷 節子, 武原 裕, 本橋 豊, 北条 京子, コジマ チエコ, サノ トモコ (豊城三方原病院)	長寿科学総合研究 JST資料番号: J1099A	Vol.1997(6), Page.94-99 (1998.03) 写図表参:写図2, 表3, 参22	高齢者は潜在的なえん下障害を持っている可能性があり、栄養障害や、えん下性肺炎を起こす危険がある。そこで、高齢者のえん下障害をスクリーニングするための簡易質問紙表を作成し、健常高齢者や脳血管障害患者を対象に実施した。本質問紙表は、えん下障害のスクリーニングに有用であり、高い信頼性を持つことが判明した。
229	Dane郡の調整特殊化した輸送プロジェクト(最終報告1995年7月-1997年12月)	Dane County Coordinated Specialized Transportation Project. (Final rept. Jul 95-Dec 97).	CASHIN N (Dane County Dept. of Human Services, Madison, WI)	PB Rep JST資料番号: P0999A レポート番号: PB-99-114084	Page.146P (1998.11)	本プロジェクトは、ワイソコンジ州運輸局(WisDOT),健康及び家族サービス局及び、ワイソコンジ州大学のミルウォーキー・センターの間で輸送教育及び開発(UW-Milwaukee(CTED)の間の協力的な努力)について述べる。このプロジェクトは、高齢者、身体障害者及び、種々の郡プログラムのサービスを受ける人々の、輸送必要性に合う調整機構としての、仲介モデルの可能性及び有効性を調査し、試験した。Dane郡の人間サービス局が、このプロジェクトを遂行した。そしてそれには以下のものである。収入資格プログラム、児童保護及び、連邦のSSI及びUSDDからの医療援助受給者。公衆衛生受益者。栄養プログラムの成人デイケアにおける高齢者及び、郡の高齢者グループ輸送サービスの利用者。支えられた雇用サービスを受けている者及び、他の自動車同乗援助プログラムの中の身体障害者。経済援助及び作業サービスを受けている者及び、種々の家族サービスを受けている者。本プロジェクトの最後のフェーズにおいて、Dane郡西部に注目した。それは、ここが主に田園地帯で、数個の小都市と低い人口密度を持っていて、ワイソコンジ州の多くの郡に似ていてからである。試験した仲介モデルは、田園地帯と都市の結合を含み、柔軟で、利用可能で、単発障害者の子供に採食・えん下の指導をする職能言語士の経験、経管栄養の状態からスプーンによる経口栄養、固形食への経過、子供のきょうじ、味覚の弁別、満腹感の表情などから、誤えんなどによる緊急処置等につく臨床言語士としての立場から解説した。
230	言語臨床における摂食・えん下指導の意味・意義を考ふる その4	They regard the meaning of eating and swallowing guidance in the language clinic. The 4.	高見 葉津 (東京都北療育医療セ)	日本職能言語士協会 報 JST資料番号: L3388A	Vol.23, No.4, Page.3-17 (1999.03) 写図表参:表3	言語臨床における摂食・えん下指導の意味・意義を考ふる。その4。田園地帯と都市の結合を含み、柔軟で、利用可能で、単発障害者の子供に採食・えん下の指導をする職能言語士の経験、経管栄養の状態からスプーンによる経口栄養、固形食への経過、子供のきょうじ、味覚の弁別、満腹感の表情などから、誤えんなどによる緊急処置等につく臨床言語士としての立場から解説した。
231	えん下障害者および高齢者に対するえん下食の開発の研究 基礎と応用 1 えん下開始食としてのセラチンゲルの構造と機能特性	Research for the development of swallowing food suitable for deglutition disorder person and old people. Basics and application 1. Structure and functional properties of gelatin gel as a swallowing start food.	渡瀬 峰男 (静岡大 農)	New Food Ind JST資料番号: F0354A ISSN: 0547-0277	Vol.41, No.2, Page.71-79 (1999.02) 写図表参:写図7, 参27	えん下障害者のえん下開始食から、徐々に回復する経過に於いて食事への対応について研究した。特に、えん下開始食としてのセラチンゲルのえん下反射について、セラチンゲルの構造と機能特性から考察した。20℃における貯蔵弾性率の経時変化から、セラチンゲルの温度を上昇していくと、ゲル中の三次元網目構造が徐々にほとんど消失することが明らかになった。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
232	Helicobacter pylori菌のTriple therapy (AMPC, CAM, PPI) (厚生省)	Triple therapy (AMPC, CAM, PPI) of Helicobacter pylori fungi. (Ministry of Health and Welfare S.)	山田和孝, 長博雪, 岡田祐輔, 広野日善, 鈴木康之 (徳岡会 東京小児療育病院), 山崎勉, 佐々木望 (埼玉医大), 南出和喜夫 (塩野義薬業), 松本高明 (鶴和メヂックス)	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 平成9年度 2年度班・初年度班 JST資料番号: N19982925	Page.438 (1998)	Helicobacter pylori感染の重症心身障害児10例に対し、アンピシリン、クラリスロマイシン、プロトンポンプ阻害薬(PPI)の3剤による除菌療法を行った。10例中7例が1か月後の培養で陰性であった。その除菌された7例の抗体価は治療前と比較して低下していた。全例、経過中副作用はなかった。
233	長期経管栄養重症心身障害児(者)の血清カロチノイドおよびビタミンAを測定し、長期経管栄養重症心身障害児(者)では血清カロチノイド値の著しい低下が認められた。しかし、血清ビタミンA値は維持されていた。今後、カロチノイド補給の必要性に関して検討が必要である。	Study of serum carotenoid and vitamin A of long-term through-tube nutrition severely psychosomatic child (person). (Ministry of Health and Welfare S.)	大村清 (国立療養所西多賀病院)	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 平成9年度 2年度班・初年度班 JST資料番号: N19982925	Page.429 (1998) 写図表参: 参2	早期経管栄養重症心身障害児(者)10名について、血清カロチノイドおよびビタミンAを測定し、長期経管栄養重症心身障害児(者)では血清カロチノイド値の著しい低下が認められた。しかし、血清ビタミンA値は維持されていた。今後、カロチノイド補給の必要性に関して検討が必要である。
234	重症心身障害児・者の栄養障害による合併症 肥満と脂質(厚生省S)	Complication of severely psychosomatic disorder child and person by nutrition disorder. Obesity and lipid (Report 2). (Ministry of Health and Welfare S.)	倉繁隆信 (高知医大)	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 平成9年度 2年度班・初年度班 JST資料番号: N19982925	Page.428 (1998)	重症心身障害児・者(重症者)27例を対象に、肥満と脂質の評価を行い、この2項目間の相関を求めた。BMI, 肥満度およびPFATは全体ではやせに判定されたが、ウエスト・ヒップ比も含めて4項目全てで加齢と共に高値となった。LDLやHDLが蛋白・アポBの異常および動脈硬化指数の割合が増加し、共に増加した。脂質との相関はウエスト・ヒップ比が最も良く相関した。
235	重症心身障害児(者)における栄養摂取に關連する病態の栄養摂取に關連する病態の栄養摂取に關する研究(厚生省S)	Studies of age dependent change of disease state related to "nutrition intake" in severely psychosomatic disorder child (person) and its countermeasures. (Ministry of Health and Welfare S.)	口分田政夫 (第一びわこ学園)	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 平成9年度 2年度班・初年度班 JST資料番号: N19982925	Page.426 (1998) 写図表参: 参1	過去25年間における栄養摂取形態の変容について検討した。また、水分や栄養の摂取形態投与経路の年齢による変化を検討した。さらに、変更した約31例について、変更の理由、効果、問題点について検討した。重症児者の栄養摂取方法は、栄養摂取の経路に通過障害や逆流、栄養摂取経路と呼吸器系が分離できなくなり呼吸器感染の発生といった病態に応じて、年齢に依存して変更の必要があった。これらは中枢神経障害による変形や、消化管の運動障害と関連していた。
236	早期経管栄養下の重症心身障害児(者)におけるセレン欠乏との検討(厚生省S)	Study of selenium deficiency and cardiac function in severely psychosomatic disorder child/person under through-tube nutrition for a long time. (Ministry of Health and Welfare S.)	橋本俊頌 (国立精神・神経医療研究センター)	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 平成9年度 2年度班・初年度班 JST資料番号: N19982925	Page.416 (1998) 写図表参: 参4	重症心身障害者で経口摂取可能な10例と、1年以上にわたり経管栄養を施行中の16例を対象として、経管栄養者がセレン欠乏に由来する心機能低下を有するかを検討した。経管栄養下の重症心身障害児(者)において、セレン欠乏が心機能低下に寄与していると考えられた。多くの症例では、理臨床的では一部の症例では症状が顕在化する理由には不明だが、セレン補充により心機能に可逆性に改善を見た。
237	様々なコミュニティーを基本とする家庭における発達障害者に対して、職員及び消費者に対する食品安全性教育訓練の必要性が存在する	Food safety training needs exist for staff and consumers in a variety of community-based homes for people with developmental disabilities.	WALTER A, COHEN N L, SWICKER R C (Univ. Massachusetts, Amherst)	J Am Diet Assoc JST資料番号: H0466A ISSN: 0002-8223 CODEN: JADAAA	Vol.97, No.6, Page.619-625 (1997.06) 写図表参: 表5, 参17	発達障害者を持つコミュニティーにおける、職員及び消費者を対象とした食品安全性に関する教育訓練の必要性と、それらの家庭における栄養士の食品取り扱い基準の認識について論じた。マサチューセッツ州の介護スタッフと栄養士を対象に、食品安全性に関する知識、取り扱い基準、HACCPに基づく安全基準などの聞き取り調査を行った。その結果、保存方法や取り扱い方法を含むいくつかの点で知識が不足していたが、介護スタッフは栄養士よりも推奨される取り扱い基準を守っていることがわかった。また、ほとんどのスタッフが栄養士はこれらの教育を受けたことがなく、その必要性が指摘された。
238	第2次巻、三条保健医療圏地域保健医療計画(新潟県S)	Second Maki/Sanjo health and medical treatment sphere regional health and medical treatment plan. (Niigata Prefecture S.)	新潟県庁	第2次巻、三条保健医療圏地域保健医療計画 平成10年 JST資料番号: N19982843	Page.58P (1998)	標題計画を策定した。内容は以下の通りである。1)総論 a)計画策定の基本方針 b)圏域の主要課題(乳幼児期・学童期・思春期の健康づくりの推進、生活習慣病予防の推進、精神障害者社会復帰支援体制の推進)、圏域の保健医療の現状、2)各論 a)健康づくりの推進(母子保健医療、成人・老人保健医療、栄養改善・健康増進、歯科保健医療、感染症全般、結核・エイズ対策、精神保健医療施設、難病対策、生活衛生、公営健康) b)推進供給体制の体系的整備(医療機能整備方針、救急・救急・救急・救急、火害時医療、医薬品等の安全性確保対策と供給サービス) c)地域保健医療を支える基盤づくり(地域・看護システムの構築、保健医療確保) d)再発腸癌による慢性腹膜炎の61歳女性で腸管が使用不能になった患者に、経管栄養法(IVH)を実施し、通末には外泊(外泊IVH)を繰り返すことができた。下腹部および背骨の痙攣性とう痛に、とう痛のコントロールに、患者は腸管が使用できず、身体障害者とみなされる状態にあったが、IVH管理とモルヒネの有効な利用により、生活の質の高い生活の継続が可能となった。緩和医療に関するこのよう工夫が在宅医療の発達に役立つと思われた。
239	慢性腹膜炎の患者に対し、外泊IVHとMSコンチンチンカプセル内充填剤を用いることにより、良好な緩和医療を行い、えいた1例	A report of palliative care on a case of cancerous peritonitis using staying-out parenteral hyper-alimentation and MS-continue-capsulated high-dose morphine	本田五郎, 山崎信保 (市立宇和島病院)	緩和療養と対症療法 JST資料番号: L1762A	Vol.8, Page.85-88 (1997.02) 写図表参: 写図3, 参3	慢性腹膜炎の患者に対し、外泊IVHとMSコンチンチンカプセル内充填剤を用いることにより、良好な緩和医療を行い、えいた1例

